

科学教育研究レター



目次

■ 選挙管理委員会だより2 一般社団法人日本科学教育学会役員選挙・代議員選挙のお知らせ	■ 国際交流委員会だより17 国際学会参加報告(72) East-Asian Association for Science Education (EASE) Winter School 2023 国際学会開催情報
■ 理事会だより3 第306回報告	■ 若手活性化委員会だより20 若手研究者, 「初心」を語る
■ 年会6 第48回年会開催案内(第4次)	■ 編集委員会だより24 2023年度第2回編集理事会報告 特集投稿募集のお知らせ 若手特集の査読協力をお願い
■ 調査研究・学術交流13 第28回教科「理科」関連学会協議会 CSERS シンポジウムのお知らせ	「科学教育研究」編集状況報告
■ 支部・研究会だより14 2023年度研究会開催のお知らせ	■ 広報委員会からのお知らせ30

一般社団法人日本科学教育学会役員選挙・代議員選挙のお知らせ

役員選挙管理委員会 雲財 寛
代議員選挙管理委員会 竹中 真希子

前号においてお知らせしましたように、次年度（2024年7月1日～）以降の役員候補および代議員候補の選挙を実施します。

今回の選挙はオンライン情報管理システム（e-naf）を用いた電子投票によって行われます。

電子投票は5月7日以降、可能になります。選挙公報は投票先 URL からご確認ください。また、選挙公報は投票終了後には閲覧できなくなりますので、予めダウンロードしていただきますようお願いいたします。

日本科学教育学会第 306 回理事会報告（案）

（議事要録承認前．要点のみ参考掲載）

日時 2024 年 3 月 16 日（土）14:00～17:30
会場 ネット会議
出席者 会長 隅田 学，副会長 清水美憲，竹中真希子
理事 加藤久恵，松原憲治，松浦拓也，山口悦司，雲財 寛，稲田結美，土佐幸子，
瀬戸崎典夫，大谷 忠，森田裕介，舟橋友香
監事 猿田祐嗣，稲垣成哲
オブザーバー 今村哲史，山本輝太郎

1. 議事要録（案）の承認

○第 305 回理事会議事録（案）を承認した。

2. 第 306 回理事会までの電子会議による審議事項と審議結果

○事務局からの発議により，23/11/30 までに入会を希望した 9 名を電子会議により審査した結果，全員の入会及び会員種別の変更が承認された（2023 年 12 月 3 日）。

○事務局からの発議により，23/12/31 までに入会を希望した 8 名を電子会議により審査した結果，全員の入会及び会員種別の変更が承認された（2024 年 1 月 9 日）。

○事務局からの発議により，「奨励賞 規程細則の改定」について電子会議により審査した結果，承認された（2024 年 1 月 24 日）。

○事務局からの発議により，24/1/31 までに入会を希望した 5 名と正会員からシニア会員への変更を希望した 1 名を電子会議により審査した結果，全員の入会及び会員種別の変更が承認された（2024 年 2 月 1 日）。

○事務局からの発議により，24/2/29 までに入会を希望した 3 名と正会員からシニア会員への変更を希望した 1 名を電子会議により審査した結果，全員の入会及び会員種別の変更が承認された（2024 年 3 月 4 日）。

3. 報告事項

1) 庶務・事務局

○事務局より文書受理（刊行物送付を含む）や諸対応について報告があった。

2) 経理・会員

○住所不明者について報告があった。

3) 機関誌編集

○機関誌の編集状況及び特集号，EBSCOhost データベース契約について報告があった。

4) 学会賞

- 第47回の年会発表賞受賞者が会員資格を満たしていることについて報告があった。
- 2024年度学会賞候補者の募集について報告があった。

5) 支部・研究会

- 2023年研究会開催報告について報告があった。
- 2023年度研究会の開催案内について報告があった。
- 原稿執筆要項における図表の転載に関わる留意事項の追加について報告があった。
- 研究会研究報告のJ-STAGE公開論文の差替について報告があった。

6) 調査研究・学术交流・男女共同参画ワーキング

- 教科「理科」関連学会協議会（CSERS）シンポジウムの開催について報告があった。
- 男女共同参画学協会連絡会について報告があった。

7) 国際交流

- 第48回年会における国際ランチョン・ミーティングの開催予定について報告があった。
- 2024年度JSSE研究会（国際交流委員会開催，英語による研究会）の開催予定について報告があった。
- 科学教育研究レターへの海外の学会参加報告の掲載について報告があった。

8) 年会企画

- 第48回年会（函館）の準備状況について報告があった。

9) 広報・学会IT化

- 『科学教育研究レター』発行について報告があった。
- 科学教育メールマガジンの発行について報告があった。
- 学会Webサイトの更新について報告があった。

10) 若手活性化

- 2023年度第2回研究会（若手活性化委員会開催）について報告があった。
- アソシエイト委員の設置計画について報告があった。
- リレーインタビューの実施計画について報告があった。

11) 選挙管理委員会

- 選挙管理委員会の活動状況について報告があった。
- 会員からの代議員候補者，理事候補者，監事候補者の推薦について報告があった。

12) 創立50周年企画準備ワーキング

- 日本科学教育学会創立50周年企画準備WGの準備状況について報告があった。

4. 協議事項

1) 経理・会員

- 退会希望者6名について説明があり承認された。
現在会員数：1,430名（正会員1,194名，学生会員120名，名誉会員21名，公共会員2名，賛助会員3名，シニア会員56名）（2024年3月1日付）
前回会員数：1369名（正会員1182名，学生会員106名，名誉会員21名，公共会員2名，賛助会員3名，シニア会員55名）（2023年10月27日付）
- 資料に基づき，2023年度中間決算状況について説明があり承認された。

2) 年会企画

○年会論文集の原稿執筆要項における図表の転載に関わる留意事項の追加について説明があり承認された。

3) 選挙管理委員会

○「役員候補者推薦書」および「代議員立候補・推薦用紙」の様式の修正について説明があり承認された。

4) 会長

○会務の再編について説明があり意見交換が行われた。

○代議員候補者，理事候補者及び監事候補者の追加について説明があり承認された。

5. 次回以降の理事会予定

- ・第307回：2024年6月15日（土）14:00～17:00 場所：株式会社内田洋行 新川第2オフィス
- ・第308回：日時未定 場所：ネット会議
- ・第309回：2024年9月13日（金）時間未定 場所：函館工業高等専門学校
- ・第310回：2024年9月15日（日）時間未定 場所：函館工業高等専門学校
- ・第311回：2024年11月16日（土）14:00～17:00 場所：ネット会議

第 48 回年会 開催案内（第 4 次）

年会企画委員会・年会実行委員会

1. 日程：2024 年 9 月 13 日（金）～15 日（日）（3 日間を予定）
2. 会場：函館工業高等専門学校
（〒042-0953 北海道函館市戸倉町 14-1）
<https://www.hakodate-ct.ac.jp/guidance/access/>
3. 連絡先：日本科学教育学会第 48 回年会実行委員会
E-mail：jssehakodate48 [at mark] gmail.com
4. スケジュール概要（予定）※プログラム編成により変更になる場合があります。
13 日（金）午後：研究発表 理事会（改選前） 顧問・理事・支部長・代議員合同会議
14 日（土）午前：研究発表 招待講演
午後：代議員総会・表彰 シンポジウム
15 日（日）午前：研究発表
午後：理事会（改選後） 研究発表（申し込み状況により設定）
*その他、各委員会による企画、各委員会の会合等があります。

5. タイムテーブル (予定) ※プログラム編成により変更になる場合があります。

タイムテーブル				
	9月13日(金)	9月14日(土)	9月15日(日)	
8:30		受付	受付	8:30
8:45		8:30~	8:30~	8:45
9:00		インタラクティブ	一般発表・	9:00
9:15		セッション	課題研究	9:15
9:30		9:00~11:00	9:00~11:00	9:30
9:45				9:45
10:00				10:00
10:15				10:15
10:30				10:30
10:45				10:45
11:00				11:00
11:15		招待講演(科学教育研究セミナー)1	理事会(改選後)	11:15
11:30		11:15~12:00	11:15~12:45	11:30
11:45				11:45
12:00	受付	招待講演(科学教育研究セミナー)2		12:00
12:15	12:00~	12:00~12:45		12:15
12:30				12:30
12:45		昼食・各種委員会	国際ランチョン	12:45
13:00	課題研究	12:45~14:00	ミーティング	13:00
13:15	13:00~15:00		12:50~13:50	13:15
13:30	一般発表			13:30
13:45	13:00~15:00			13:45
14:00		総会・表彰		14:00
14:15		14:00~15:30		14:15
14:30				14:30
14:45				14:45
15:00				15:00
15:15	理事会(改選前)	若手活性化	課題研究	15:15
15:30	15:15~17:15	委員会企画	15:15~17:15	15:30
15:45		チュートリアル		15:45
16:00		15:15~17:15		16:00
16:15		シンポジウム		16:15
16:30		15:45~18:15		16:30
16:45				16:45
17:00				17:00
17:15				17:15
17:30	顧問・理事・支部長		年会実行委員会・	17:30
17:45	代議員合同会議		年会企画委員会合同会議	17:45
18:00	17:30~19:30	若手活性化委員会企画	17:30~18:30	18:00
18:15		スタートアップパーティ		18:15
18:30		18:00~20:00		18:30
18:45		懇親会		18:45
19:00		18:30~20:30		19:00
19:15				19:15
19:30				19:30
19:45				19:45
20:00				20:00
20:15				20:15
20:30				20:30

6. 内容：次の内容を予定しています.

(1) 招待講演（科学教育研究セミナー）

招待講演（科学教育研究セミナー） 1
後藤 みな（山形大学）

招待講演（科学教育研究セミナー） 2
川上 貴（宇都宮大学）

(2) シンポジウム

Society5.0 で求められる「サイエンス」人材とは～宇宙的視野からの人材育成法を北海道から発信する～

昨今、情報化、グローバル化が進む中で、社会はますます複雑かつ多文化的になってきている。これは、あらゆる分野の科学、工学、さらには組織マネジメントなどにおいて、技術的進化がなされた結果であり、技術的に複雑な社会において、なにか達成する場合、さまざまな分野から情報を得て、プロセスを洗練していく必要があることを意味する。

一方、GX など、各国の施策を世界的視野で捉えていく、さらに連携していくことが求められる。このことは、数理・データサイエンスを拠り所に、不確実な未来における予測可能な側面に対応するだけでなく、不確実な未来のコントロール可能な側面も合わせて見ていかなければならない。また、アポロ計画等進む中で、地球における気候変動等は、今後宇宙規模で考えていく必要もある。

上記のような肥大化していく課題に対し、**Society5.0** を実現していく中でどう向き合うのか、またそのために求められる人材育成の在り方を北海道の今から考える。

登壇者

調整中

コーディネーター

下郡啓夫（函館工業高等専門学校）

(3) 課題研究発表

特定のテーマについて徹底的に議論できる場とします。企画をお持ちの方は応募ください。詳細は「7. 発表申込等について」をご覧ください。

(4) 一般研究発表

一般の口頭発表形式のセッションです。詳細は「7. 発表申込等について」をご覧ください。

(5) インタラクティブセッション

対面でのポスター発表もしくは実演紹介の形態で、研究内容についてインタラクティブにじっくりと語り合う場です。詳細は「7. 発表申込等について」をご覧ください。

(6) その他の企画

7. 発表申込等について

- ・発表申し込みの際には、「参加受付番号」の入力が必要になります。参加申し込み（年会 Web サイトの参加申込用リンク：<https://jsse.jp/jsseam/jsse48/sanka>）を先に済ませた後、メールで通知いたします。「参加受付番号」を確認して、発表申し込みを行ってください。
- ・2024年10月以降に年会論文集の原稿を J-STAGE に掲載します。
- ・原稿提出締め切り期日を厳守してください。原稿提出締め切り期日後は、年会論文集や J-STAGE への掲載も含めて、学会側の瑕疵を除き、修正や差し替えができませんことをご了承ください。

(1) 課題研究発表の申込・原稿提出

特定のテーマについて徹底的に議論できる場とします。企画をお持ちの方は応募ください。

<スケジュール（予定）>

- ・企画応募開始：2024年5月1日(水)【オーガナイザー → 年会企画委員会】
- ・企画応募締切：2024年5月17日（金）【オーガナイザー → 年会企画委員会】
- ・受理審議：2024年5月20日（月）～5月24日（金）【年会企画委員会】
- ・審議結果報告：2024年5月27日（月）【年会企画委員会 → オーガナイザー】
- ・原稿提出期間：2024年5月29日（水）～6月21日（金）【オーガナイザー → アップロード】

※ 6月21日（金）は、登壇者がオーガナイザーに提出する期限ではなく、オーガナイザーが登壇者全員の原稿をとりまとめて年会企画委員会に提出（「JSSE年会申込Webサイト」からアップロード）する期限です。従前どおり、オーガナイザーが全員分を取りまとめてアップロードいただくか、登壇者自身でアップロードいただくか、どちらかの方法でご提出ください。

<企画応募方法>

- ・年会 Web サイト掲載の方法で、申し込んでください。

<原稿提出方法>

- ・年会 Web サイト掲載の方法で、「JSSE 年会申込 Web サイト」から必要事項を記入の上、完成原稿（発表1件あたり4ページまたは2ページ）の PDF ファイル（1ファイル約1MB未満、セキュリティなし）を提出（アップロード）してください。

<応募に当たっての留意事項>

- ・オーガナイザー資格：会員でなければなりません。
- ・登壇者：登壇者を企画応募締切までに確定してください。課題研究発表での登壇は1回とし、登壇者の重複はできません。登壇を依頼される場合には、当該登壇者が他の課題研究発表と重複ができない点を周知・確認した上で確定するようにしてください。なお、登壇者とは別に指定討論者を立てる場合には、申請用紙に記入してください。指定討論者については、重複を認めます。
- ・登壇者資格：登壇者は会員、非会員を問いません。ただし、非会員による発表件数は、原則として当該課題研究における全発表件数の半数を超えないものとします。やむを得ずに半数を超える場合は、企画応募締切までにその理由を理由書に記入し、申請用紙に添えて申し込んでください。非会員の発表件数が全発表件数の半数を超えた場合で理由書の添付されていない企画は受理されません。非会員の発表件数が当該課題研究における全発表件数の半数を超えている企画について受理するかどうかは、年会企画委員会で審議します。なお、受理された企画であっても、受理後に登壇者の変更がなされ、非会員による発表件数が当該課題研究における全発表件数の半数を超えた場合、受理が取り消される場合もありますので、ご留意願います。

(2) 一般研究発表・インタラクティブセッションの申込・原稿提出

<スケジュール（予定）>

- ・申込及び原稿提出期間：2024年5月29日（水）～6月21日（金）

※申込と原稿提出を同時に行ってください。

※期日等に変更が生じた場合は、学会 Web や科学教育研究レターなどで通知します。

<申込及び原稿提出方法>

- ・年会 Web サイト掲載の方法で、「JSSE 年会申込 Web サイト」から必要事項を記入の上、完成原稿の PDF ファイル (1 ファイル約 1MB 未満、セキュリティなし) を提出 (アップロード) してください。
- ・書式や留意事項等の詳細は、「日本科学教育学会 年会論文集 執筆要項」をご覧ください。

<資格・登壇可能件数>

- ・登壇者資格：会員でなければなりません。

※本欄における「会員」とは、学会事務局が入会申込書の受付を済ませていることを意味します。ただし、発表申込及び原稿提出期間と年会開催日程が学会の事業年度（毎年7月1日から翌年6月30日）をまたぐため、入会申込書の受付を済ませた者の入会時期（入会手続きの完了時期）については、発表申込及び原稿提出期間の年度ではなく、年会が開催される新年度からの入会でも可とします。

- ・登壇者として申込可能な一般研究発表・インタラクティブセッションの件数は、各1件です。なお、一般研究発表・インタラクティブセッションの登壇者は、課題研究、その他の企画にも登壇することができます。

<発表時間>

- ・一般研究発表の持ち時間は20分程度（発表15分、質疑・討論5分）を予定しています。
- ・インタラクティブセッションは2時間の発表時間を設定する予定です。

(3) 年会論文集原稿の執筆内容に関する留意事項

原稿執筆にあたっては、次の要件を満たすように心がけてください。

◆研究領域

日本科学教育学会の会員が関心を持つ研究領域の研究である。

◆主題または問題の所在

問題の所在が明快である。

◆研究の背景

関連研究、依拠する理論、関連する実践等によって、研究の背景が明示されている。

◆研究の方法

研究の方法論、手順、計画などが適切で、それらが明示されている。

◆結果と知見

得られた結果、知見、アイデア等が明示されている。

◆結論

問題の所在に即した結論や課題が明示されている。

8. 各委員会等による企画

(1) 若手活性化委員会

- ・13日（金）の午後にかけて、チュートリアルを計画中です。

(2) 国際交流委員会

- ・14日（土）の昼に、国際ランチョン・ミーティングを計画中です。

9. 年会の開催形態等について

- ・第48回年会は、現地での対面開催を基本とします。ただし、課題研究発表はハイフレックス開催

も可としますが、その準備や運営については登壇者にさせていただきます。一般研究発表は対面での発表部屋とは別に、オンライン専用の発表部屋を設定する予定です（オンラインでの参加者は、対面での発表部屋には参加できないなどの制限があります）。インタラクティブセッションは、対面のみで実施します。

- ・オンラインでの参加・発表については、各自でオンライン会議システムZoom等が利用できる機器（パソコン・タブレット、イヤホン、マイク、モバイルWi-Fiルータ等）の準備をお願いします。
- ・要旨集（プログラム）・論文集は、電子的方法にて配布いたします。
- ・会期中に台風・地震などの災害が起こった際や、感染症拡大による緊急事態宣言が現地で発令された際の中止や開催方法の変更等の対応につきましては、開催校である函館工業高等専門学校の規定等を準用して判断し、年会Webサイト等を通じてご案内します。

10. 参加費・懇親会費

- ・参加費は、会員種別・支払日に応じて、表1の通りとなります。
- ・懇親会費は、会員種別・支払日に応じて、表2の通りとなります。
- ・申込先：年会Webサイトの参加申込用リンクからお申し込みください。

表1. 参加費一覧表

会員種別	参加費（事前）	参加費（通常）
正会員・シニア会員	6,000 円	8,000 円
学生会員	4,000 円	5,000 円
非会員（学生以外）	8,000 円	10,000 円
非会員（学生）	5,000 円	6,000 円
支払期限	7月31日（水）	当日
支払方法	クレジットカード払い 銀行振込	クレジットカード払い 現金

表2. 懇親会費一覧表

会員種別	参加費（事前）	参加費（通常）
正会員・シニア会員	5,000 円	7,000 円
学生会員	3,000 円	4,000 円
非会員（学生以外）	6,000 円	8,000 円
非会員（学生）	4,000 円	5,000 円
支払期限	7月31日（水）	当日
支払方法	クレジットカード払い 銀行振込	クレジットカード払い 現金

※参加費には、年会論文集ダウンロード案内が含まれています。

※支払方法：年会Webサイトに掲載の方法で送金してください。手数料はご負担ください。

※参加費の支払いは、事前申込の場合はクレジットカード払いと銀行振込が利用できます。また、当日申込の場合はクレジットカード払いと現金払いが利用できます。ただし、銀行振込は7月31日（水）までとなります。振込先口座番号は、申し込み画面にて確認できます。

※申込後のキャンセルの場合、理由の如何を問わず、返金はできかねますので予め承知願います。

11. 宿泊の斡旋

- ・斡旋の予定はありません。各自で手配いただきますようお願いいたします。

12. 託児サービス

- ・会期中の託児サービスを検討中です。詳細については、web サイトにて連絡いたします。

13. 第 48 回年会実行委員会

委員長 下郡啓夫（函館工業高等専門学校）

委員 阿部勝正（函館工業高等専門学校）・今野慎介（函館工業高等専門学校）

水野章敏（函館工業高等専門学校）・山本けい子（函館工業高等専門学校）

14. 年会企画委員会

委員長 山本智一（兵庫教育大学）

副委員長 川上 貴（宇都宮大学），服部裕一郎（岡山大学）

幹事 神山真一（大阪体育大学）

担当理事 瀬戸崎典夫（長崎大学），大谷 忠（東京学芸大学）

委員 石橋一昂（岡山大学），江草遼平（千葉商科大学），

小野寺かれん（京都光華女子大学），川崎弘作（岡山大学），

木村優里（東京工業大学），小泉健輔（横浜国立大学），

中原久志（大分大学），畠山 久（東京工業大学），

福田博人（岡山理科大学），増田有紀（埼玉大学），

向 平和（愛媛大学），山中真悟（福山市立大学），山本輝太郎（金沢星稷大学）

第 28 回 教科「理科」関連学会協議会 CSERS シンポジウムのお知らせ

テーマ：小中高理科における教員養成や教員研修の在り方

趣旨：学習指導要領の理念を実現するために、教員一人一人が社会の変化を見据えながら、これからの時代に必要な資質・能力を子供たちに育むことができるよう、教員の養成・採用・研修を通じて教員としての力量を改善することが必要であるとされている。しかし、教員採用試験の倍率は年々低下し、教育をめぐる状況変化はそのスピードがはやく、改善が実現できているとは言い難い状況にある。特に、理科においては、指導に苦手意識をもつ小学校教員が多いこと、経験不足から観察・実験の指導に不安を抱えている中高教員が多いことなどが課題として挙げられている。本シンポジウムでは、教科「理科」関連学会として、理科教育に携わる様々な立場の方々と情報を共有し、理科教員の養成や研修に関わる課題を取り上げ、改善の方向性について議論していきたい。

日時：2024年5月19日（日）13:00～16:00

会場：Zoom によるオンライン形式

参加費：無料

申込み：<https://csers2024-28.peatix.com/> よりお申込み下さい。

プログラム：

12:30～13:00 Zoom 接続

13:00～13:10 趣旨説明 CSERS 議長 日本化学会／東京学芸大学附属国際中等教育学校 鮫島 朋美

13:10～13:40 講演①「理科の教員養成と教員研修 ―これまでとこれから―」

東京学芸大学 理科教員高度支援センター (ASCeST) 特命教授 新田 英雄

13:40～14:10 講演②「小・中学校における理科授業の現状と研修を通じた教員育成の工夫」

埼玉県教育局市町村支援部義務教育指導課 指導主事 柿沼 宏充

14:10～14:40 講演③「現場の小・中学校が求める教員研修」

愛知県 公立小・中学校 教諭 勘解由 雅嗣

15:00～16:00 総合討論

主催：教科「理科」関連学会協議会 CSERS

問合せ：CSERS シンポジウム事務局 [csers.jimukyoku\[at mark\]gmail.com](mailto:csers.jimukyoku[at mark]gmail.com)

※[at mark]を@に変換して送信してください。

【教科「理科」関連学会協議会 CSERS とは】

日本物理教育学会・日本化学会・日本生物教育学会・日本地学教育学会・日本理科教育学会・日本科学教育学会の6学会が連携し、理科教育に関する課題について協議し、その振興に資することを目的としています。

(調査研究・学術交流担当 秋田, 稲田, 三宅)

2023 年度研究会開催のお知らせ

今後の開催計画

開催支部/委員会	開催日	発表申し込み締切日	会場
国際交流委員会	終了しました	終了しました	オンライン開催
若手活性化委員会	終了しました	終了しました	九州大学
北陸甲信越支部	終了しました	終了しました	山梨大学
北関東支部	終了しました	終了しました	オンライン開催
四国支部	2024 年 6 月 1 日 (土)	2024 年 4 月 22 日 (月)	高知大学 (朝倉キャンパス)
中国支部	2024 年 6 月 22 日 (土)	2024 年 5 月 13 日 (月)	島根大学

研究会に関する最新情報は学会 Web ページに掲載しますので、ご確認ください。

※右の QR コードより、学会 Web ページ（研究会案内）にアクセスできます。

<https://jsse.jp/1-3>



2023 年度 第 5 回日本科学教育学会研究会（四国支部開催）

[テーマ] 学習指導要領改訂に向けて～「個別最適な学びと協働的な学び」の再考を軸として～

[主催] 一般社団法人 日本科学教育学会

[日時] 2024 年 6 月 1 日 (土) 10:00～17:00 (予定)

[会場] 高知大学 朝倉キャンパス 教育学部 51 番教室 (対面開催)

〒780-8520 高知県高知市曙町 2-5-1

[対象] 会員、教員、学生、社会人

[参加] 発表の有無にかかわらず参加できます。会員でない方もご参加いただけます。

参加費は無料です。

発表されない場合は、当日参加も可能です。

[問い合わせ先] 2023 年度第 5 回日本科学教育学会研究会・企画編集委員：中城 満

〒780-8520 高知県高知市曙町 2-5-1 高知大学 教育学部 理科教育講座

Tel/Fax (088-844-8413)

E-mail : mit-na(atmark)kochi-u.ac.jp (中城 満)

※アドレスの(atmark)の部分は@です。

[発表申込・原稿提出] 発表は、単名または連名発表者に 1 名以上の会員を含むことが条件となります。

発表申し込み時に「入会申し込み」が完了していれば、会員として扱うこととします。

希望される方は、氏名、所属、発表題目、E-mail アドレス、電話番号、連絡先住所を明記した E-mail を 企画編集委員：中城 満（高知大学）までお送りください。

発表申込締切は、2024 年 4 月 22 日 (月) です。

研究会研究報告の原稿執筆要項は学会ホームページをご参照ください。

〈 URL : <https://jsse.jp/1-3/115-2> 〉

研究会研究報告の原稿例も学会ホームページをご参照ください。

〈 URL : <https://jsse.jp/1-3/125-2> 〉

原稿投稿料の支払いと原稿の提出締切は、2024年5月10日（金）です。

次のウェブサイトから投稿してください。

〈 URL : <https://jsse-kenkyukai-form.jp/> 〉

研究会情報のプルダウンメニューで「四国支部」を選んでください。

投稿完了メールは<info(atmark)jsse-kenkyukai-form.jp>より自動送信されます。このアドレスからのメールを受信できるように、あらかじめフィルタ設定等をご確認ください。アドレスの(atmark)の部分は@です。

原稿提出が指定の期日に遅れますと、投稿できなくなり、自動的に取り消しとなります。また、原稿投稿料が指定の期日に遅れますと、発表できませんので、ご注意ください。

多数の方々の申込をお待ちしております。

日本科学教育学会 四国支部長 早藤幸隆（鳴門教育大学）

2023年度 第6回日本科学教育学会研究会（中国支部開催）

[テーマ] 教育実践から考える未来の科学教育

[主催] 一般社団法人 日本科学教育学会

[日時] 2024年6月22日（土）9:00～16:00（予定）

[会場] 島根大学教育学部 教育学部棟 35番教室・ICTルーム（対面開催）

〒690-8504 島根県松江市西川津町1060

[対象] 会員、教員、学生、社会人

[参加] 発表の有無にかかわらず参加できます。会員でない方もご参加いただけます。

参加費は無料です。

参加を予定される方は、2024年6月15日（月）までに下記問い合わせにご連絡ください。

[問い合わせ先] 2023年度第6回日本科学教育学会研究会・企画編集委員：下村 岳人

〒690-8504 島根県松江市西川津町1060

Tel 0852-32-6064（内線3782）

E-mail : [shimadaishimoken\(atmark\)gmail.com](mailto:shimadaishimoken(atmark)gmail.com)（下村 岳人）

※アドレスの(atmark)の部分は@です。

[発表申込・原稿提出] 発表は、単名または連名発表者に1名以上の会員を含むことが条件となります。

発表申し込み時に「入会申し込み」が完了していれば、会員として扱うこととします。

希望される方は、氏名、所属、発表題目、E-mail アドレス、電話番号、連絡先住所を明記したE-mailを企画編集委員：下村 岳人（島根大学）までお送りください。

発表申込締切は、2024年5月13日（月）です。

研究会研究報告の原稿執筆要項は学会ホームページをご参照ください。

〈 URL : <https://jsse.jp/1-3/115-2> 〉

研究会研究報告の原稿例も学会ホームページをご参照ください。

〈 URL : <https://jsse.jp/1-3/125-2> 〉

原稿投稿料の支払いと原稿の提出締切は、2024年6月2日（日）です。

次のウェブサイトから投稿してください。

〈 URL : <https://jsse-kenkyukai-form.jp/> 〉

研究会情報のプルダウンメニューで「四国支部」を選んでください。

投稿完了メールは<info(atmark)jsse-kenkyukai-form.jp>より自動送信されます。このアドレスからのメールを受信できるように、あらかじめフィルタ設定等をご確認ください。アドレスの(atmark)の部分は@です。

原稿提出が指定の期日に遅れますと、投稿できなくなり、自動的に取り消しとなります。また、原稿投稿料が指定の期日に遅れますと、発表できませんので、ご注意ください。

多数の方々の申込をお待ちしております。

日本科学教育学会 中国支部長 佐々木弘記 (中国学園大学)

国際学会参加報告(72)

East-Asian Association for Science Education (EASE)
Winter School 2023

今年度の EASE (East-Asian for Science Education) winter school は、コロナ禍の後、約 4 年ぶりの対面形式で、2024 年 1 月 14 日から 20 日までタイ (バンコク) で開催されました。インドネシア、韓国、タイ、台湾、中国本土、日本、香港、合計 7 つの国・地域から合計 35 名の学生と 14 名の教授が集まり、「持続可能な開発のための STEM 教育」をテーマとして、交流、議論、そして研究発表が行われました。私は、日本からの中国人留学生として、本会に参加しました。



本大会は、主に 3 つの活動で構成されていました。まず、1 つ目は、各国・地域の教授によるレクチャーです。具体的には、科学教育における観察・実験などの学習活動の意義といったこれまでの科学教育の在り方に関する内容から、AI 時代における科学教育の将来について議論を促す内容など、幅広くご教授いただき、自分の視野を広げる大変貴重な機会となりました。特に、私は、STEM に関する業界における最新技術の活用や新しい能力の育成、それに対して、どんな時代でも科学教育において重要視されている指導・学習方法や創造力、といったことについて見識を深めることができました。2 つ目は、グループワークです。異なる国・地域の学生がグループに分けられて、教授やコーチのご指導、ご助言の下、お互いに自分の研究を発表し、その後、協働プロポーザルを作成し、発表しました。この共同プロポーザルは、学生たちが自分で決めたテーマを中心に展開され、研究計画の立案から発表資料の作成に至るまで、コミュニケーションをとり協働的な研究交流をして、良さそうなフレーズを作りました。特に、約 3 日間という限られた時間の中で、1 から 10 までプロポーザルを作成し発表する過程は、相互学習を通して団結力が身につく、とても貴重な学びの機会になりました。3 つ目は、タイ文化の学習です。ワット・プラバトムチェーディー (พระปฐมเจดีย์) と呼ばれるお寺の訪問、文化遺産であるグランドシャドープレー (Grand shadow play) の鑑賞、シラパコーン大学の芸術センターの訪問などを通して、タイ文化に触れることができました。

今回のウィンタースクールに参加して、学術的な学びだけでなく、コミュニケーション能力や団結力の必要性を理解することができました。また、私は留学生として日本にきて長い時間が経ちましたが、今回の活動を通じて、異文化理解の重要性を再認識することができました。



(高駿業 : Junye GAO · 広島大学)

国際学会開催情報

2024 年

ICMI Study 26: Advances in Geometry Education

開催地：Reims, France

期間：2024 年 4 月 23 日-4 月 26 日

<https://icmistry26.sciencesconf.org/>

International Science Education Conference 2024

開催地：National Institute of Education, Singapore

期間：2024 年 6 月 24 日-6 月 26 日

<https://isec2024singapore.org/>

International STEM EDUCATION Conference 2024 Singapore

開催地：National Institute of Education, Singapore

期間：2024 年 6 月 26 日-6 月 28 日

<https://istem-ed2024singapore.org/>

The 15th International Congress on Mathematics Education (ICME-15)

開催地：Sydney, Australia

期間：2024 年 7 月 7 日-7 月 14 日

<https://icme15.org/>

ICMSCE EASE Joint International Conferences 2024

開催地：Universitas Pendidikan Indonesia, Indonesia

期間：2024 年 7 月 8 日-7 月 10 日

発表エントリー締切り：2024 年 4 月 30 日

<https://icmsce.upi.edu/>

47th Annual Meeting of the International Group for the Psychology of Mathematics Education (PME47)

開催地：Auckland, New Zealand

期間：2024 年 7 月 17 日-7 月 21 日

<https://events.massey.ac.nz/pme-47-conference/>

The 18th Asia-Pacific Conference on Giftedness (APCG)

開催地：香川県, 日本

期間：2024年8月17日-8月20日

発表エントリー締切り：2024年4月22日

<https://apcg-japan2024.org/>

The 4th World Conference on Physics Education 2024 (WCPE)

開催地：Krakow, Poland

期間：2024年8月26日-8月30日

<https://indico.cern.ch/event/1162407/>

The Asian Association for Biology Education 2024 (AABE 2024)

会議テーマ：グローバル・ウェルビーイングへの展望：教科等横断型学習における生物教育

開催地：愛媛大学 城北キャンパス, 愛媛県, 日本

期間：2024年10月12日-10月15日（10月16日に有料エクスカージョンを実施）

登録エントリー締切り：2024年7月20日

<https://www.aabe2024.com/>

備考：大会中に中高生の生徒によるポスターセッションを開催予定

2025年

The 14th Congress of the European Society for Research in Mathematics Education (CERME14)

開催地：Bozen-Bolzano, Italy

期間：2025年2月4日-2月8日

発表エントリー締切り：2024年9月15日

<https://www.cerme14.it>

若手研究者、「初心」を語る

春の訪れを感じる桜の開花とともに、今年も新年度が始まりました。この時期に、人生の中で大きな意味をもつ一步を踏み出す人も多いのではないのでしょうか。第4回目となる「若手研究者、初心を語る」では、「大学教員一年目」を過ごされた3名の先生にご寄稿いただきました。それぞれの地で奮闘してきた若手研究者たちの、旬な叫びをお届けします。

記憶と時

大阪教育大学 岡部舞

「記憶にないです。気が付いたら1年経っていましたね。笑」そう笑い飛ばす自分がある。これは、本執筆依頼が来たときに一言目に出た言葉である。

2023年の春、なりたかった大学教員になり、やっと自分のスタートラインに立てた。新天地で心を踊らせながら4月を迎える準備をした。いざ、4月を迎えると激動の日々で、特に初めは問い合わせやメールのやり取りで1日の半分が終わることが多かった。何となく慣れてきた頃には、次の仕事が始まる。学生対応や学内の業務で1日が終わることなんてざらにあった。とにかく、振られた仕事や業務をこなす事で精一杯で、あっという間に毎日が過ぎていった。

大学の授業では、教員養成を担う者として、どのような内容を伝えるのが一番良いのか悩んだ。学術的な知見も伝えたいが、それに偏り寄りすぎると具体的な授業例を出す前に1コマの授業が終わってしまう。学生からの授業の感想やコメントを確認し、彼らにとって、この先の学術的な知見を知りたくなるような「ちょうど良い」バランスを模索しながら取り組んだ。やっと自分の中で最適解が見つかった頃、授業はあと残り数回だけになっていた。

大学教員として大切な研究では、その研究に割ける時間が思うように取れず、焦りを感じ、自分の1日のタスク管理に思い悩む日が続いた。こんなに時間が無いものか、要領が悪い自分に嫌気がさした。研究のto doリストだけが埋まっていくメモを見ながら、できることを探した。悩んだ時は恩師に相談した。自分で解決するにしても、ただ話を聞いてくれる存在がいるだけで、自分は一人ではない気がした。幸い、同世代の若手にも恵まれていて、たくさんの悩みを共有できた。同じ境遇の人や経験をしている人たちからの言葉は、励ましになるとともに、自分にはない視点を与えてくれた。自分にとって恩師や同世代の若手と話をすることは、日々を乗り越えるための力になってくれた。「何かを強く望めば、宇宙のすべてが協力してそれを実現するように助けてくれる」(パウロ・コエーリョ『アルケミスト』1988年)そんな気がした。

この1年は、大学教員として始まったばかりのほんの一部に過ぎない。自分かどのような研究者になりたいか、どんな学生を育てていきたいか、思い悩む日々はたくさんあると思う。そんな日々も楽しみながら、自分を信じ、内なる声に耳を傾け2年目、3年目と過ごしていきたい。

大学教員 1 年目を終えて

宮崎大学 中村大輝

2023 年春、長い時間を過ごした広島を離れ、宮崎で大学教員 1 年目を迎えた。前任者が 31 年間過ごした部屋を受け継ぎ、「中村研究室」というまだ色褪せていない真新しい表札が掲げられたのを見た時、自分がとうとう大学教員になったのだということを自覚した。小学校教員を辞めてから 4 年後、今度は大学生を教えることになったのだ。

大学教員の仕事は教育と研究であるとよく言われる。1 年目は講義の内容を一から作成する必要があったが、授業づくりが好きな自分にとってこの作業は苦ではなかった。悩むことがあったとすれば、学問的な厳密性をどこまで担保するかについてだ。科学教育の研究を進めるほど、分からないことが多くあることに気づかされる。このような複雑さを伝えるには 15 回という講義回数は少なすぎた。他方で、分かりやすさを優先して表面的な内容を教えることは研究者として不誠実にも思えた。このような厳密さと分かりやすさのジレンマに悩みながら、15 回の講義が終わっていった。

もう 1 つの仕事は研究であったはずだが、そんな時間がどこにあるのか見当たらなかった。毎日、学内の業務に関するメールが引切り無しに届き、内容を理解するのに多くの時間がかかった。大学に親切的な研修体制はほとんど無く、分からないことは自分で聞いて解決するしかなかった。学生への手厚い支援が求められ、大学教員の時間を際限なく奪っていった。失われた研究時間を取り戻すために帰宅後もパソコンに向かうようになった。灰色の時間泥棒に生活が蝕まれていった。

夏が終わるころ、このままではいけないと考え、働き方改革に取り組んだ。幸い、同僚や友人、科学教育分野の同世代の若手に恵まれ、様々なアドバイスをもらうことができた。まず、学内業務は完璧を追究することをやめた。宮崎の方言で「大雑把」や「ほどほど」を意味する「てげてげ」という表現がある。てげてげに業務をこなして、少しずつできることを増やしていけばいいと思うようになった。研究では仲間を頼るようになり、個人ではなくチームで取り組む機会が増えた。夕飯までには家に帰るようになった。心にゆとりができると、あらゆる活動を楽しんで取り組めるようになった。

大学教員 2 年目を迎えた 2024 年春、自分の研究室の 3 つ隣の部屋にまだ色褪せていない真新しい表札がやってきた。少し色褪せた自分の表札を見ながら 1 年間を振り返り、この原稿を書いている。思い返せば、この 1 年間は忙しさの中に多くの充実した時間があった。学生と一緒に悩んで作り上げた講義、若手研究者で議論した勉強会、チームで取り組んだ研究、そのどれもが色鮮やかに思い出される。これから大学教員を目指す人へ、今ならこの仕事の楽しさを伝えられる気がする。

ばあちゃんへ

北海道教育大学札幌校 荒谷航平

元気ですか。ばあちゃんに手紙を書くのは久しぶりだね。言われた通り、ご飯だけはお腹いっぱい食べて、みんな元気にやっているよ。ばあちゃんのことだから、相変わらず笑顔で民宿をやっていることと思います。ご飯をたくさん食べて元気に過ごしてね。

前にも少し話したけど、運にも恵まれて北海道教育大学に採用してもらい、静岡から北海道に戻ってきました。ついに大学の先生になりました。ばあちゃんが励ましたり、応援したりしてくれたおかげです。ありがとう。

僕にも、心から先生と呼びたい人や、遊び友達のような研究仲間ができました。数名だけど、教え子もいます。周りに支えてくれる人たちがたくさんいます。その人たちのおかげでなんとか1年を終えることができました。周りの人たちに感謝する毎日です。

だけど今日まで、まるで吹雪のなかを一人で歩いているみたいでした。吹き付ける雪のせいで顔を上げて行く先を見ることもできず、歩いて来たはずの道もあつという間に雪で埋もれてしまって引き返すこともできなさそうです。その場でじっとしようにも、指や耳が次第に凍れて感覚がなくなってしまうようになります。訳も分からないまま、ただ一歩ずつ前に進むしかありませんでした。ここまで来るのに、大切なものをたくさん落っことしてきたような気がしています。できればもう少し早く戻ってきて、ばあちゃんといろんな話をしたかったなあ。仕方がなかったんだと納得するしかなさそうです。

おそらくこれからもこの吹雪がやむことはないのだろうと思います。だから、これからもばあちゃんが教えてくれた方向感覚を頼りに、うつむいて足元を確かめながら一歩ずつ着実に歩いていきたいです。

また手紙を書きます。これからも応援してね。お元気で。

航平

2022年7月12日、祖母はこの世を去った。ちょうど北海道教育大学から公募が出て、北海道に戻れるかもしれない、とわずかに心躍らせていた初夏のことだった。

生前、祖母は月に一度、お小遣い1万円とともに手紙を送ってくれた。ご飯だけはお腹いっぱい食べなさい。やっていることをあきらめないでやり続けなさい、と書いてあった。誰よりも私のことを応援してくれた人だった。トマトにお砂糖をたくさんかけて食べるのが好きだった。

その他

情報は、若手活性化委員会 Facebook ページやメーリングリストで続々公開しております。どうぞご期待下さい。

Facebook ページやメーリングリストの登録は、随時、受け付けています。ぜひご登録ください。

○若手活性化委員会 Facebook

<https://www.facebook.com/jssewakate/>

○JSSE 若手研究者メーリングリスト登録 URL

<https://goo.gl/tClQb4>

(大阪教育大学：岡部舞)

2023 年度第 2 回編集理事会報告

2023 年度第 2 回編集理事会は、2024 年 3 月 6 日（水）に、オンライン会議システム Zoom を利用した遠隔会議で開催された。まず、第 48 巻第 2 号からの若干の体裁変更が決定された。続いて、特集「データサイエンスと科学教育（2025 年 6 月発刊予定）」（第 49 巻，第 2 号）の趣意文が決定された。その後、特集「次世代を担う若手研究者の科学教育研究（2023 年 12 月発刊予定）」（第 47 巻，第 4 号）の発刊、特集「ウィズコロナ社会に求められる新しい科学教育の挑戦（2024 年 6 月発刊予定）」（第 48 巻，第 2 号）の編集状況、特集「次世代を担う若手研究者の科学教育研究（2024 年 12 月発刊予定）」（第 48 巻，第 4 号）の準備状況、「科学教育研究」全体の編集状況、EBSCOhost データベース契約完了と今後の予定、次期編集委員会の体制の準備状況などが報告された。併せて、図表の転載に係る執筆要項改定などに関する意見交換が行われた。加えて、後日のメール審議により、特集「次世代を担う若手研究者の科学教育研究（2024 年 12 月発刊予定）」（第 48 巻，第 4 号）に係る特集編集部会委員が決定された。

次回の編集理事会は、2024 年 6 月に、遠隔会議での開催が予定されている。また、年会期間中における編集委員会については、今年は 2 年に 1 度の委員の半数が入れ代わる年であるため、旧委員と新委員が出席し、対面での開催が予定されている。

特集投稿募集のお知らせ

編集委員会では、下記の主旨で、「科学教育研究」第 49 巻第 2 号での特集を企画します。研究論文、総説、展望、資料、プラザ、全ての種別の原稿を募集いたします。ふるってご投稿のほどお願い申し上げます。

なお、投稿規定により、「科学教育研究」への投稿論文は、筆頭著者が日本科学教育学会の会員である必要がありますので、その点ご注意ください。

編集委員長 青山和裕
特集編集部会長 川上 貴

記

特集名：データサイエンスと科学教育

AI 技術の発達と「ビッグデータ」の登場に伴い、現代社会において、データサイエンスの役割や意義が増している。実際、GPS、画像認識、自動運転、レコメンドサービス、SNS、感染症予測、環境予測、生成 AI など、データサイエンスの利活用が、我々の生活の中にも益々浸透してきている。

他方で、こうしたデータサイエンスの潮流は、科学教育諸分野にも変革をもたらしつつある。例えば、日本学術会議の「新学習指導要領下での算数・数学教育の円滑な実施に向けた緊急提言：統計教育の実効性の向上に焦点を当てて」や「大学における数理・データサイエンス・AI教育の中での統計科学の教育について」にみられるように、科学教育諸分野において、数理・データサイエンス・AIに関する素養やAI実装社会への対応力を備えた市民・人材の育成が求められてきている。さらに、内閣府の「デジタル社会の実現に向けた重点計画」で示されたように、教育データを利活用したデータ駆動型の教育も求められている。

データサイエンスの科学教育への関わりは、研究内容から研究方法に至るまで多岐にわたると考えられる。データサイエンスに関わると思われるキーワードを挙げると、統計、確率、数学、モデル・モデリング、教育データ、データの可視化・分析、コーディング、シミュレーション、プログラミング、アルゴリズム、コンピューショナルシンキング、AI、機械学習、データ倫理教育、STEM/STEAM教育、高等教育、IoTなどである。しかしながら、データサイエンスが、実際に科学教育の研究や実践等にどの程度貢献してくるのかは、まだ不明な点が多い。

このような背景を踏まえ、本特集は、「データサイエンスと科学教育」をテーマとし、幅広く投稿を求め、AI実装社会に対応する科学教育の構築への足掛かりとする。本特集では、データサイエンスを幅広く捉えて、データサイエンスと科学教育に関する先端的な研究や実践などに限定することなく、データサイエンスの基礎となるような従来から取り組まれている科学教育に関する研究や実践等も対象としている。また、データサイエンスと科学教育に関する理論的または実証的な独創性のある研究成果の投稿はもちろんのこと、データサイエンスと科学教育についての新しい思潮、政策、研究動向の解説や展望に関する投稿、データサイエンスと科学教育に関して資料的価値のある投稿、データサイエンスと科学教育に対する意見・提言の投稿も大いに歓迎する。募集する研究領域の投稿論文は、以下の通りである。

- ・データサイエンスと科学教育についての動向や課題に関する総説
- ・データサイエンスと科学教育に関する理論的研究
- ・データサイエンスと科学教育に関する実践的研究
- ・データサイエンスと科学教育に関する国際比較研究・調査研究
- ・データサイエンスと科学教育に関する評価研究
- ・データサイエンスと科学教育に関する教員養成研究・教師教育研究
- ・データサイエンスを応用した研究方法や研究手法を採用した科学教育研究
- ・その他、データサイエンスと科学教育に関する研究

特集編集部会の構成メンバー

部会長：川上 貴（宇都宮大学）

副部会長：畠山 久（東京工業大学）

特集編集部会委員：石橋一昂（岡山大学）、雲財 寛（東海大学）、大寫竜午（千葉大学）、大谷洋貴（大妻女子大学）、小口祐一（茨城大学）、古賀竣也（崇城大学）、塩澤友樹（椙山女学園大学）、瀬戸崎典夫（長崎大学）、辻 宏子（明治学院大学）、永井正洋（東京都立大学）、中村大輝（宮崎大学）、林 敏浩（香川大学）、松波紀幸（帝京大学）、谷田親彦（広島大学）、渡辺雄貴（東京理科大学）ほか

事前申込締切：2024年9月30日

*査読プロセスを円滑に進めるため、特集は投稿前に「事前申込」を設けております。投稿を予定している方には誠にお手数ですが、著者名・所属、タイトル、論文種別、E-mail アドレス、電話番号、連絡先住所を [jsse-hen\[atmark\]nacos.com](mailto:jsse-hen[atmark]nacos.com) までお送りください。事前申込せずに投稿する場合は、投稿締め切りまでにご投稿ください。

投稿受付開始：2024年5月1日

投稿締め切り：2024年10月31日

*特集に投稿する場合は、投稿システムの「手順6: 設問」画面の「掲載号」で「特集号」を選択してください。

*査読は、10月1日以降、順次開始します。

発刊予定：2025年6月（49巻2号）

投稿論文の取り扱い

本特集の刊行までに採択されない投稿論文については、一般論文としての査読を継続いたします。ただし、その際には、査読システムの特性上、改めて一般論文として新規投稿していただきます。

以上

若手特集の査読協力をお願い

日本科学教育学会会員の皆様

編集委員長 青山和裕
特集編集部会長 小松孝太郎

学会誌『科学教育研究』若手特集の査読協力をお願い

日頃より本学会の活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

皆様もご存じの通り、本学会では若手活性化委員会を設け、関連の研究会を開催する等、次世代を担う若手研究者の育成に力を入れています。学会誌『科学教育研究』では若手特集を企画し、今回も数多くのご投稿をいただきました。

若手特集では、若手会員のキャリアパス形成のため、編集部も若手会員を中心として組織しています。皆様にとって馴染みのない編集委員から査読の依頼があるかもしれませんが、経験豊富な方からのコメントは、投稿者だけでなく編集委員にとっても大きな学びとなります。ぜひ若手研究者の育成の一環としてお引き受けいただければ幸いです。

また、以前に別の論文を査読してからそれほど時間が経っていなかったり、既に別の査読を抱えていたりする中での審査依頼となる場合がございます。若手特集だけで2本の査読をお願いすることもあるかもしれません。投稿数の多さからのゆえにご理解いただけたらと存じます。論文の内容が必ずしもご専門と合致しない場合もありますが、『科学教育研究』の読者層は多様ですので、広い立場からのご意見も重要と受け止めていただけますと幸甚です。

『科学教育研究』の編集委員会では、論文の査読を、査読者自身の学問的立場に立脚して論文の良否を判断するのではなく、著者自身の立場にたって論文を読み、その論理的妥当性を吟味する作業であると考えています。若手特集でも、研究内容の可能性、将来性を積極的に評価いただけますようお願い申し上げます。

以上、どうぞよろしく願いいたします。

以上

1. 新規投稿論文（2024.2.1～2024.3.31）：34 編

【内訳】

和文 34 編

英文 0 編

2. 査読中論文（2024.3.31 現在）：72 編

【内訳】

著者に差し戻し中（受付前）：17 編

担当編集委員選出中：12 編

査読者選出中：1 編

査読者諾否待：4 編

査読中（1回目）：9 編

担当編集委員による第1審総合判定中：3 編

改訂稿待ち：9 編

査読中（2回目）：11 編

担当編集委員による第2審総合判定中：3 編

編集委員長による最終判定中：3 編

3. 掲載決定論文（2024.2.1～2024.3.31 現在）：10 編

【内訳】

研究論文：6 編

総説・展望：2 編

資料：2 編

プラザ：0 編

【合計】

48-1号：2 編（通算 4 編）

48-2号：8 編（通算 8 編）

4. 投稿状況及び掲載決定状況の推移 (2021.3.1~2024.3.31 現在)

(2024年3月31日 現在)

	新規投稿論文数 (編)		審査中 (編)		掲載決定論文数 (掲載号)		招待論文数 (掲載号)		掲載不可論文数 (見なし取り下げを含む)	
	和文	英文	和文	英文	和文	英文	和文	英文	掲載不可	取り下げ
2021年 3月	11	0	23	0	7 (45-2)	0 (45-2)	0		7	0
					0 (45-3)	0 (45-3)	0			
2021年 4月	14	0	28	0	1 (45-2)	0 (45-2)	0		6	0
					2 (45-3)	0 (45-3)	0			
2021年 5月	6	0	25	0	0 (45-2)	0 (45-2)	2		6	0
					3 (45-3)	0 (45-3)	0			
2021年 6月	4	0	23	0	2 (45-3)	0 (45-3)	0		4	0
					0 (45-4)	0 (45-4)	0			
2021年 7月	8	0	27	0	2 (45-3)	0 (45-3)	0		1	0
					1 (45-4)	0 (45-4)	0			
2021年 8月	3	0	25	0	0 (45-3)	0 (45-3)	0		4	1
					0 (45-4)	0 (45-4)	0			
2021年 9月	3	0	22	0	0 (45-3)	0 (45-3)	0		3	0
					3 (45-4)	0 (45-4)	0			
2021年 10月	6	0	18	0	1 (45-4)	0 (45-4)	0		6	1
					2 (46-1)	0 (46-1)	0			
2021年 11月	13	0	29	0	0 (45-4)	0 (45-4)	0		2	0
					0 (46-1)	0 (46-1)	0			
2021年 12月	6	0	30	0	2 (46-1)	0 (46-1)	0		3	0
					0 (46-2)	0 (46-2)	0			
2022年 1月	6	0	24	0	1 (46-1)	0 (46-1)	0		9	0
					2 (46-2)	0 (46-2)	0			
2022年 2月	5	0	24	0	2 (46-2)	0 (46-2)	0		3	0
					0 (46-3)	0 (46-3)	0			
2022年 3月	17	0	29	0	5 (46-2)	0 (46-2)	0		5	1
					1 (46-3)	0 (46-3)	0			
2022年 4月	15	0	38	0	0 (46-2)	0 (46-2)	0		5	1
					0 (46-3)	0 (46-3)	0			
2022年 5月	7	0	40	0	0 (46-2)	0 (46-2)	0		4	0
					1 (46-3)	0 (46-3)	0			
2022年 6月	8	0	44	0	1 (46-3)	0 (46-3)	0		3	0
					0 (46-4)	0 (46-4)	0			
2022年 7月	4	0	31	0	1 (46-3)	0 (46-3)	0		9	0
					7 (46-4)	0 (46-4)	0			
2022年 8月	11	0	28	0	0 (46-3)	0 (46-3)	0		8	1
					4 (46-4)	0 (46-4)	0			
2022年 9月	4	0	21	0	0 (46-3)	0 (46-3)	0		2	0
					9 (46-4)	0 (46-4)	0			
2022年 10月	11	0	25	0	0 (46-4)	0 (46-4)	0		6	1
					0 (47-1)	0 (47-1)	0			
2022年 11月	12	0	31	0	0 (46-4)	0 (46-4)	0		4	1
					1 (47-1)	0 (47-1)	0			
2022年 12月	6	0	34	0	1 (47-1)	0 (47-1)	0		2	0
					0 (47-2)	0 (47-2)	0			
2023年 1月	7	0	30	0	2 (47-1)	0 (47-1)	0		9	0
					0 (47-2)	0 (47-2)	0			
2023年 2月	8	0	31	0	0 (47-1)	0 (47-1)	0		3	0
					4 (47-2)	0 (47-2)	0			
2023年 3月	17	0	35	0	5 (47-2)	0 (47-2)	1 (47-2)		8	0
					0 (47-3)	0 (47-3)	0			
2023年 4月	19	0	48	0	1 (47-2)	0 (47-2)	2 (47-2)		4	1
					0 (47-3)	0 (47-3)	0			
2023年 5月	11	0	43	0	0 (47-2)	0 (47-2)	0		11	2
					3 (47-3)	0 (47-3)	0			
2023年 6月	6	0	41	0	3 (47-3)	0 (47-3)	3		4	0
					1 (47-4)	0 (47-4)	0			
2023年 7月	5	1	39	1	1 (47-3)	0 (47-3)	0		3	1
					2 (47-4)	0 (47-4)	0			
2023年 8月	7	0	34	0	0 (47-3)	0 (47-3)	0		7	0
					5 (47-4)	0 (47-4)	0			
2023年 9月	4	1	27	1	6 (47-4)	0 (47-4)	0		5	0
					0 (48-1)	0 (48-1)	0			
2023年 10月	18	0	34	1	5 (47-4)	0 (47-4)	0		5	0
					1 (48-1)	0 (48-1)	0			
2023年 11月	20	0	51	1	0 (47-4)	0 (47-4)	0		0	2
					0 (48-1)	0 (48-1)	0			
2023年 12月	4	0	51	1	1 (48-1)	0 (48-1)	0		3	0
					0 (48-2)	0 (48-2)	0			
2024年 1月	7	0	46	1	0 (48-1)	0 (48-1)	0		8	2
					0 (48-2)	0 (48-2)	0			
2024年 2月	13	0	47	0	2 (48-1)	0 (48-1)	0		7	0
					2 (48-2)	1 (48-2)	0			
2024年 3月	21	0	55	0	5 (48-2)	0 (48-2)	0		4	4
					0 (48-3)	0 (48-3)	0			

広報委員会からのお知らせ

科学教育研究レター第 267 号をお届けします。一般社団法人日本科学教育学会の広報活動についてお気づきの点などがございましたら、学会 Web サイトにある「お問い合わせ」をご利用のうえ、お知らせください。

担当理事： 森田裕介（早稲田大） 大貫麻美（白百合女子大）
委 員： 山口悦司（神戸大） 三宅志穂（神戸女学院大） 雲財 寛（東海大）
 稲田結美（日本体育大） 黒田友貴（静岡大） 江草遼平（千葉商科大）
 増田有紀（東京成徳大） 岡部 舞（大阪教育大）
幹 事： 谷塚光典（信州大） 榎本哲士（信州大） 後藤みな（山形大）

科学教育研究レター編集 日本科学教育学会広報委員会

一般社団法人日本科学教育学会

Japan Society for Science Education

URL : <http://www.jsse.jp>

□ 事務局 中西印刷（株） 学会部 内 TEL : 075-415-3661 FAX : 075-415-3662

E-mail : [jsse \[at mark\] nacos.com](mailto:jsse[at mark]nacos.com)

〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入ル

□ 編集事務局（論文投稿・査読編集）

TEL : 075-415-3155 FAX : 075-417-2050

E-mail : [jsse-hen \[at mark\] nacos.com](mailto:jsse-hen[at mark]nacos.com)

中西印刷（株） 学会部 内 〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入ル

郵便振替口座：00170-6-85183 一般社団法人日本科学教育学会

銀行口座：みずほ銀行 京都中央支店 普通 2419484 一般社団法人日本科学教育学会